



255号
2020/7

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



街道のスイカ売り：^{シャングリラ}香格里拉市から麗江へ移動中、街道に沿ってスイカ畑と即売店が点在していた。河川敷を利用して水はけがよさそう。買い求めて、途中のレストランで切ってもらって食べた。私は「甘さが足りない!」と失礼なことを言ってしまったが、ちゃんと冷やせば日本と同じくらい美味しかったと思う。

今月もまた、日本ではあまりポピュラーな言葉ではありません。

・>・>・>・>・>・>・

昔、独りの寄席芸人が、沢山の猿を上手く調教して、楽しい猿の芸を見せていました。観客の一人が、

「あんたの猿たちは、本当にうまく芸をするね。どうやって芸を覚え込ませたんだい？」

と訊くと、芸人は笑って：

「なあに、猿たちは私を怖がっているだけです」と答えました。

初めの頃、猿たちは全く彼の言うことを聞かず、彼をからかうような行動をとったりしました。そこで彼は市場へ出かけて行って、生きた鶏を一羽買ってきました。そして猿たちの目の前で、鶏を殺して捌いて見せました。猿たちは驚いて、恐ろし気に見ているだけでした。彼には、猿たちが、

「言うことを聞かなかつたら、この鶏のように殺されてしまうだろう。真面目に言うことを聞こう」と思ったのがよく分かりました。

それから後、猿たちは彼の教えた通りによく動き、楽しい芸を見せて、町の人気者になりました。

・>・>・>・>・>・>・

言葉の意味：鶏を殺すところを猿に見せる。ある人を諷めるのに、他の人を罰してみせる喩え。

使い方：罪を犯した人を厳罰に処せば、「杀鸡吓猴」（見せしめ）の効果がある。

・>・>・>・>・>・>・

これは、清朝の時代から使われるようになった言葉で、同じことを「殺鶏儆猿」ともいうようで、満柏画伯の挿絵のタイトルは「殺鶏儆猿」でした。「儆」という字は「戒める」という意味です。

口語では、「殺鶏給猿看」が使われるそうです。

言葉としては新しいのですが、国を治める手法としては、代々の王朝が好んで採用する、効果的な統治方法でした。今の世の中でも、全くないとは言えない手法ですね。

今までにも度々お話していますが、本の中のお話を紹介していて、しばしば、この本が小学校へ上がる前の子ども達を対象に書かれた本だということに驚かされます、「見せしめ」と言った意味の四字成語を教えたいのですが、幼稚園生に、喩え鶏でも「殺す」ところを見せて、「見せしめ」にすることは、日本ではあまり

考えられませんね。とは言っても、今の子ども達は、テレビゲームなどで「殺す」とか「殺される」とか言葉としては知っています。ゲーム感覚で、生半可に言葉として知っているよりも、学校で取り上げて、本当の意味を教えた方が良いのではないかと考えてしまうこともあります。

そんな感想とは別に、このお話を読んで、もう16・7年も前になりますか、海南島を旅行した時のお猿さんを思い出して、今でも思わず微笑んでしまいます。十数匹のお猿さんが、観光客歓迎の幟を持って並んで迎えてくれるのですが、観光客が通り過ぎると途端に幟を放り出して、思い思いの格好でくつろぎます。そして、次の一団が来るとまた慌てて幟を手に起立するのです。その落差があまりにも歴然として、思わず笑ってしまいました。昔のことでしたから、観光客もそう多くなくて適当に休んでいたようですが、昨今は中国人旅行者も沢山押しかけるので、お猿さんたちも休暇が無いのでは、と心配しています。



挿絵 満柏氏

おお ねずみ
大 鼠 詩経・魏風

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

おお ねずみ
大 鼠

しきょう ぎふう
詩経・魏風

大鼠、大鼠

我らの黍を食うでない
三年お主に仕えてきたが
お主は我らに目もくれぬ
我らはお主に見切りをつけて
楽しい村へいざ行こう
楽しい村よ、楽しい村よ
そこが我らの住むところ

大鼠、大鼠

我らの麦を食うでない
三年お主に仕えてきたが
お主の仕打ちは情けない
我らはお主に見切りをつけて
楽しい国へいざ行こう
楽しい国よ、楽しい国よ
そこが我らの立つところ

大鼠、大鼠

我らの苗を食うでない
三年お主に仕えてきたが
お主は冷たく知らぬ顔
我らはお主に見切りをつけて
楽しい里へいざ行こう
楽しい里よ、楽しい里よ
そこは嘆きのないところ

孔子は『論語』の中で「詩は以て興す可く、以て観る可く、以て群す可く、以て怨む可し」(陽貨第十七)と語っています。「興」(おこす)とは感動を引き起こすこと。「観」(みる)とは社会風俗を写し出すことです。「群」(ぐんす)とは人々が寄り集うこと。「怨」(うらむ)とは怨みを訴えることです。ここで注目したいのは「怨」の一字です。

『詩経』には、苦しみや怨み言を述べた作品が数多くありますが、中には時の支配者を糾弾するものもあります。「大鼠」(原題「碩鼠」)は、そのような類の作品です。大鼠は苛税を取り立てる役人を暗喩しています。

[原詩]

shuò shǔ
碩 鼠
shī jīng wèi fēng
詩経・魏風

shuò	shǔ	shuò	shǔ
碩	鼠	碩	鼠
wú	shí	wǒ	shǔ
无	食	我	黍
sān	sù	guàn	rǚ
三	岁	贯	女
mò	wǒ	kěn	gù
莫	我	肯	顾
shì	jiāng	qù	rǚ
逝	将	去	女
shì	bǐ	lè	tǔ
适	彼	乐	土
lè	tǔ	lè	tǔ
乐	土	乐	土
yuán	dé	wǒ	suǒ
爰	得	我	所

*) 贯: 仕える。女(rǚ): あなた。汝に同じ。
适: 適(ゆ)く。行く。爰: 於是。ここに。

shuò shǔ shuò shǔ
 碩 鼠 碩 鼠
 wú shí wǒ mài
 无 食 我 麦
 sān suì guàn rǚ
 三 岁 贯 女
 mò wǒ kěn dé
 莫 我 肯 德
 shì jiāng qù rǚ
 逝 将 去 女
 shì bǐ lè guó
 适 彼 乐 国
 lè guó yuè guó
 乐 国 乐 国
 yuán dé wǒ zhí
 爰 得 我 直

せき そ せき そ
 碩鼠、碩鼠
 わぎ くら なか
 我が麦を食う無れ
 なんじ つか
 三歳 女に貫うるも
 我に肯て徳ある莫し
 ゆ まさ なんじ
 逝きて将に女を去り
 か らくこく ゆ
 彼の楽国に適かん
 楽国、楽国
 ここ ちよく
 爰に我が直を得ん

shuò shǔ shuò shǔ
 碩 鼠 碩 鼠
 wú shí wǒ miáo
 无 食 我 苗
 sān suì guàn rǚ
 三 岁 贯 女
 mò wǒ kěn láo
 莫 我 肯 劳
 shì jiāng qù rǚ
 逝 将 去 女
 shì bǐ lè jiāo
 适 彼 乐 郊
 lè jiāo lè jiāo
 乐 郊 乐 郊
 shéi zhī yǒng háo
 谁 之 永 号

せき そ せき そ
 碩鼠、碩鼠
 なえ くら なか
 我が苗を食う無れ
 なんじ つか
 三歳 女に貫うるも
 あへ いたわ な
 我を肯て 劳る莫し
 ゆ まさ なんじ
 逝きて将に女を去り
 か らくこく ゆ
 彼の楽郊に適かん
 楽郊、楽郊
 たれ これ さげ
 誰か之永く号ばんや

*) 劳:いたわる。号(háo):さげぶ。泣き叫ぶ。

[訓読]

せき そ せき そ
 碩鼠、碩鼠
 きび くら なか
 我が黍を食う無れ
 さんさい なんじ つか
 三歳 女に貫うるも
 あえ
 我を肯て
 かえりみ な
 顧る莫し
 ゆ まさ なんじ
 逝きて将に女を去り
 か らくど ゆ
 彼の楽土に適かん
 楽土、楽土
 ここ ところ
 爰に我が所を得ん



中国、搜狐・「四书五经赏析」赏析《诗经·魏风·硕鼠》より

今回から〈中国の歴史を彩る美人百花〉と題して書いていきたい。彼女たちがどのように歴史に彩を添えたか、皇帝はその色香にどのように迷わされたか、あるいは国を傾けたかなどを綴っていききたい。

悠久の歴史の中国は、歴代皇帝が造り上げて来た歴史でもある。しかし絶対的権力者である皇帝でさえ中国の古来の政治思想である「天は徳の高い者を天子として万民を統べらせる」が、一たびその家系に不徳のものが出たり政治が混迷の様相を呈してきたときは、その天命を別の家（姓）に委ねるといふ易姓革命の歴史でもあった。例えば、隋は楊家、唐は李家、宋は趙家、明は朱家のようにである。その点日本の万世一系の天皇家とは全く異なる。日本は女性が何人か天皇位に就いたが、中国の皇帝は例外を除き全て男である。例外は唐代の則天武后で、690年から705年の15年間在位した。ただ一人を除き全て男とはいえ、皇帝亡き後の皇太后としての地位を利用するなどして権力を牛耳った皇后や妃は何人かいる。漢の呂后、唐の則天武后、清の西太后の三大悪女はその典型である。この3人は私の目には美人と映らないので取り上げない。また時代の流れに大きな影響を与えた皇后や妃は枚挙に暇がないくらいであるが彼女らの大半は美女である。何千人という後宮の中からより取り見取りであるからやはり美女は多いのであろう。美女は多いが、天が二物を与えた才女はさほど多くはない。とはいえ、



湘妃竹（百度百科から）

やはり中国史に厚みを持たせている。

男は古今東西美人に弱い。どの皇帝もその色香に迷い彼女たちのご機嫌伺いや自分の愛の形を表すため、色々なことを部下に命じた。例えば呉王・夫差は霊岩山頂に西施のため「館娃宮」という豪華な住まいを造らせたのだ。挙句の果てには国を危うくしていく。彼女たちも宝石をいくつも望む程度であれば可愛いだが、権力を握ったり酒池肉林に及ぶと手を付けられなくなる。4

千年の歴史を鮮やかに彩った中国美人について、筆者の知りうる知識の中でグループに分けて書いていきたい。筆者の主観が多少入るのはお許し頂きたい。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

最初に紹介するのは、「舜」の二人の妃である。この二人は、皇后なり妃の鑑のような女性である。まず舜とはどんな人物か見てみよう。中国の歴史の書き始めは、神話時代に遡り「三

皇五帝」からスタートするのが常である。日本でも天照大神や須佐之男命などから始まるのに似ている。三皇とは、「伏羲」「神農」「黄帝」であり、五帝とは、「少昊」「颯頊」「嚳」「堯」「舜」である。いずれも立派な帝であるが、5番目に挙がっている舜は堯が指名したと伝わっている。そして舜から夏王朝の最初の王である「禹」に帝位を禅譲したことになっている。この辺りから神話時代から現実の世界に切り替わっていく。ひと昔前は、殷墟の発見などから中国の具体的な時代が殷（BC16世紀頃～BC11世紀頃）から

始まっていたが、その後の研究や発掘などから夏王朝を殷の前に位置させている。禹は五帝の中の顓頊の孫と言われているが、黄河の治水に大きな功績を挙げたことから、治水の神様として崇められてきた。実は洪水に悩まされてきた日本でも禹王を祀る記念碑が全国にある。禹王の学会（東アジア文化交渉学会）が毎年のように、神奈川県南足柄市の開成町で開かれており、筆者も参加したことがある。開成町を流れる川もその昔何度も洪水に遭遇し、禹王の神通力にあやかろうとしたのである。

話を戻すと、堯帝は舜を立派な男と見込んでいたためか二人の娘を舜に嫁がせた。その名は姉が「娥皇」といい、妹が「女英」という。後の世の画家たちが描いた絵しかないのが本当かどうか分からないが、二人とも美しくかつ聡明であったようだ。舜が帝位に就くと、娥皇は皇后となり女英は妃となった。理由は定かではないが舜は父母や弟から何度も貶められたそうで、その都度二人の機転に助けられ窮地を脱したという。舜と二人は仲睦まじい生活を送っていたが、舜が巡幸していた際に湖南省の九嶷山あたりで亡くなってしまった。二人は嘆き悲しんだ挙句、洞庭湖に身投げをし舜の後を追ったという。死後、湘水という川の女神になったとの伝説がある。湘水とは河南省にある洞庭湖に注ぐ長さ 856 kmの川である。因みに湖南省の別名の「湘」はこの川に由来する。また二人が流した滂沱の涙を竹に注いだところ、この辺りの青竹には涙の痕のような黒っぽい斑点がいく

つも浮き出た竹が生え、いつしかその竹を「湘妃竹」と人々は言うようになったとの伝説が有る。写真で見ると確かに青竹に黒い斑点がいくつもあある竹林がある。また姉妹の故事は、屈原の「楚辞」にある「九歌」や「離騷」に幻想的に詠われているという。屈原も高潔なあまり世を悲観した末、やはり洞庭湖に注ぐ川の淵に身を投じたが何かつながりを感じるの筆者だけであろうか。

実は、あの狩野探幽（1602年～1674年）が二人と舜を描いた絵が残っている。「舜王・娥皇・女英図」という。狩野探幽は何を見て描いたのか、或いは何かから着想を得たのであろうか、1665年の作である。箱根の小涌谷の「岡田美術館」にあるというので機会を見つけて見に行こうと思っている。

本稿の終わりに前出の舜が亡くなった「九嶷山」と「瀟湘」について触れておきたい。「九嶷山」は湖南省にあり、高さ 1985 mの山で九つの峰を持つ。九つの中に「娥皇」峰と「女英」峰が

あるそうだ。この地方の人々の深い思いを感じないではいけない。「瀟湘」は、洞庭湖の南方、瀟水と湘水という河川の合するあたりを指す。湖南省には、有名な山水画の伝統的な画材となった「瀟湘八景」があり、日本の水墨画にも大きな影響を与えている。なお九嶷山は「瀟湘八景」には入っていないが、「新瀟湘八景」に入っている。

次号は、美女シリーズには外せない〈中国古代四大美女〉について書いていきたい。（続く）



狩野探幽「舜王・娥皇・女英図」。3幅のうち1図。（岡田美術館蔵、1665作）

■1月5日 鄭州、そして北京へ

7時に起床し、9時30分に、チェックアウトをし、次の目的地である鄭州に向かうため、ホテルからタクシーで開封北駅に移動しました。

開封市内は朝から雨でありましたが、郊外では雪に変わりました。夕方には鄭州から北京に飛行機で移動しなければなりません、定刻通りに離陸するのか不安であります。この不安の中、タクシーは雪の中にもかかわらず、速度超過で走り続け、開封北駅には30分くらいで到着。

駅の案内板で列車が定刻通りの運行であることを確認し、ひとまず安心。鄭州に向かう貴陽北駅行のG2688号も10時51分定刻通りに到着し、乗り込みました。列車の形式は、日本の北海道新幹線のE5系のようなカモノハシの嘴みたいな形であり、塗装は東海道新幹線と同じ白地に青色でありました。中国の高鉄の列車の型式には統一感がないように感じます。高鉄の車窓から見えるのは一面雪景色でありましたが、降雪の中でも時速300キロで飛ばすことができるのは、日本の新幹線と同水準の技術があるということでしょうか。

鄭州東駅には定刻通りの11時12分に到着し、鄭州の中心部の鄭州駅まで地下鉄で移動しました。鄭州駅に到着後、スーツケースを鄭州駅の荷物預け処で預け、身を軽くし、2時間くらいの鄭州観光をすることにしました。

鄭州市内は雪ではなく、雨でありました。鄭州駅からは、鄭州で有名な観光地である二七塔まで、3輪バイクタクシーで移動しました。

二七塔は1923年2月7日に当時の軍閥政権の鉄道労働者への締め付けに対して発生したストライキ(二七大罷工)を記念して建てられた塔であります。高さは65メートルであり、内部は二七大罷工に関する



二七塔

資料が展示され、共産党の教育施設であるため、入場料金は無料であります。

塔の内部を30分ほど見物した後、2キロ先にある商の時代の遺跡を見に行こうと思いましたが、雨のため断念するしかありませんでした。この時点で13時でありましたが、二七塔周辺には自分が食事をしたと思えるような適当な店がなかったため、二七塔から地下鉄で鄭州駅に戻り、鄭州駅構内にある肉夾饅(肉夹馍 ròujiāmó)の店に入り、肉夾饅を食べました。前日にも、開封で肉夾饅を食べましたが、上品に食べることは非常に難しく、手や口は汚れます(私だけか?)。ただ、病み付きになる味であります。別名「中国式ハンバーガー」とも呼ばれています。



肉夾饅

昼食後、荷物を預け処から回収し、地下鉄で鄭州空港へ移動しました。郊外に出ると再び外は雨から雪景色に変わっていました。16時20分頃に、鄭州空港に到着し、空港の電光掲示板を見たところ、私が搭乗する CA1392 便の遅延や欠航がないことを確認し、ひとまず安心。17時50分に北京行きの CA1392 便は定刻通り出発しました。鄭州に滞在したのは、わずか5時間ほどでありましたが、機会があれば、再訪し、商の時代の遺跡や黄河等を見てみたいと思います。

鄭州・北京間の距離は600キロであり、安定飛行の時間も非常に短く、離陸後1時間もしないうちに着陸態勢に入り、定刻通り19時20分に北京空港に到着しました。

北京空港から出ると、降雪の状態であり、周辺は鄭州よりも、積雪がありました。空港からホテルまではタクシーで移動しましたが、タクシーは降雪にも関わらずスピードを出しすぎて（中国のタクシーには「速度遵守」という言葉がないのか？）、危うく前方に割り込んできた他の車に衝突しそうになりました。ちなみにこのタクシーではシートベルトが壊れていて（日本でしたら、整備不良で営業できないと思います）、運転手からは「シートベルトはしなくて良い」と言われたので、シートベルトをしていなかったことにより、身が前に乗り出し、危うくダッシュボードに頭をぶつけそうになりました。

ホテルにチェックイン後、雪が降る中、宿の周辺で「御一人様入店」が可能な店を探しましたが、郊外に位置しているためか、なかなか見つからず、30分くらいしてようやく「御一人様入店」可能な餃子屋を見つけました。そこで、菲と卵の餃子を注文し食べました。15個入りで20元くらいだった記憶があり、全て1人で食べ切りました。

食後は近くのスーパーで翌朝に食べるパンを買い、ホテルに戻り、23時に就寝しました。

空港近くのホテルであるため、夜中でも航空機の離発着が行われたため、騒音がうるさく、あまり良く眠ることができませんでした。



餃子屋で出会った猫

■1月6日 帰国

5時半に起床し、荷物を整理し、7時にチェックアウトをしました。7時30分前には北京空港に到着し、チェックイン、出国審査、保安検査も1時間くらいで完了し、搭乗口に到着しました。

搭乗便は北京国際空港で新たに整備された第3ターミナルからの出発でありました。第3ターミナルの構内はとにかく広すぎます。免税店が数軒と、お土産物屋が4軒、スタバ、ケンタッキーがそれぞれ1軒しかなく、面積の割には、店舗数が少ないのです。第3ターミナルを利用する場合は、出国手続き前に買い物を済ませておくことをお勧めします。

滑走路には雪が残っていて、搭乗した便は滑走路に入る前に機体の雪落としに30分ほどを要し、11時に離陸しました。成田空港には15時15分に到着し、入国手続き等もスムーズに終わり、その後は、自分の車で無事に帰宅しました。

今回の旅はほとんど何もトラブルがなく終わりましたが、今回の旅行期間中、旅した西安、洛陽、開封の600km南に位置する武漢では、既に新型コロナウイルスの発生が確認されていたようです。現地のメディアでは、あまり取り上げられなかったため、この時点では、危機的な状況ではなかったかと思います。帰国の1週間後くらいには、入出国の制限がかなり始めたため、私の旅行期間が少し後にずれていたら、どのようになっていたのか分かりません。早期に新型コロナウイルスの禍が終息することを祈ります。

(完)

海外出張の思い出（クウェート編③）

高島敬明

前回は、市中見学からの帰り道でクウェートではご法度のアルコールを造るための、甘いジュース、砂糖、イースト菌を入手したところまででした。

さて宿舎に帰り、まずこれらからアルコール造りを始めました。甘いジュースに更に砂糖を流し込み、添付されていた流し込み棒でかき混ぜてさらに甘くしてパン造りのイースト菌を加え静かにかき混ぜます。瓶の栓は紙でほこりが入らないようにするくらいに開放しておきジュースも一杯にはしません。部屋は常時クーラーが効いているので布を巻いて保温されるように工夫を凝らします。部屋には現場から帰ると皆さん自由に出入りしますので、瓶は目につかないところに隠しておきます。毎日事務所から帰ると楽しみに隠してある瓶を確認し中を見るのです。一週間もすると、ブクブクと醗酵してきます。後3日くらいかなと楽しみにしていたのですが、たまたま遅く帰って布を取って瓶を見ると中身が半分くらいに減っているのです。やられたなと思って周りの仲間を見ると顔の赤い人が数人います。それだけでは“逮捕”の証拠にはなりません。しばらくすると赤い顔の男たちが非常な頭痛を訴える様になります。これが証拠です。醗酵しきってない瓶のお酒を飲むと非常に頭が痛くなるのです。仲間皆で大笑いをしました。天罰です。

暫くすると鍛冶溶接の仕事をしている作業職の人達が、計装の細い銅管をうまくぐるぐると円状に巻いた管をつくりヤカンに移し替えた瓶のお酒の上に差し込み、少しづつヤカンを熱すると中のアルコールがスパイラルの細い銅管を伝ってぼたぼたと蒸留してくるのです。それが純粹のアルコールになります。これはウオッカのように強烈でした。アルコールそのものですから美味しくはありませんが酔うためだけに、オンザロック、水割りと厳格な禁酒の国で毎



現在の製油所（グーグルアースから）

晩の酒盛りです。ところが蛇の道は蛇と言いますが、どこからか今度の○曜日に警察の一斉手入れが入るらしいと情報が入ります。

皆さん大慌てで、あっちでもこっちでも土漠の硬い土を掘り起こしています。大事に大事に現場の梱包材から取ったビニールで大切に蒸留装置を傷めないように包み、土中に埋めて行きます。回教の国なので金曜日は礼拝日で警察の手入れはありません。うわさの曜日に朝から待っても待っても、一週間待っているのではと次の週の同じ曜日を待っても待ってもその情報の日には一回も警察から手入れを受けたことはありませんでした。会社の方で意識的に情報を流したのではと話していたのですが、宗教上のことであるだけに警察に捕まると厄介なことになります。細心の注意を払いました。会社もそれを心配して警告の意味で注意を喚起したのかもしれませんが。

回教の戒律が厳しいこの国の社会ですが、N社の幹部の方たちが、富裕層の邸宅にパーティーで呼ばれたりすることがあります。するとあまりにも立派過ぎる地下のホームバーを見てびっくりするそうです。酒の瓶がずらりと並び、世界中の酒が用意されているそうです。真夏になると“ラマダン”と言って回教徒は日の出から日の入りまで断食をしなければなりません。“ラマダン”とは「暑い月」の意だそうです。

すが、イスラム暦で9月だそうです。断食というより「禁欲生活」をしなければならないのです。色々な欲を断つことで自身を清めてイスラム教の信仰を強める狙いがあるそうです。日中は水も飲みません。大相撲の“大砂嵐”が飲まず食わずで場所を務めた話が知られていますね。現場の作業員は朝起きると少ない水道の蛇口からコーラー本分の水を拝借し、日陰に行ってその水を手に流し片方の手を舐める様に洗います。次に、残った水で足のサンダルを脱いで埃まみれの足を又舐める様に洗い清めます。少ない水で手、顔、足の順に清めてから日中の断食（禁欲）に入ります。夕方回教寺院の塔から合図のコーランが流れると家や露店、いたるところで食事が始まります。その厳しい“ラマダン”の時期になると先程のお金持ちの人達は、決まってスイスや北の国の別荘に出掛け一か月の休暇に入ります。足を洗っていた先程の庶民の人達は、暑い砂漠の中でアッラーのメッカに向かってゴザを敷いてその上で一日5回の礼拝が義務付けられています。従って、又かというほど頻繁に礼拝が行われ仕事に影響してもお構いなしにアッチコッチで行われます。メッカに向かって礼拝中にその前を横切ったりすると、厳しく処罰の対象になると聞きました。前回、海外出張で行ったアフリカのナイジェリアとは大違いです。

ところで地球儀を見ると、赤道を挟んで北回帰線（北緯23度26分）と南回帰線（南緯23度26分）が描かれています。ご承知の通り地軸が23度傾いているためですが、日本くらいの緯度になると春夏秋冬がはっきりしてありがたいことに四季の移ろいを肌で感じる事が出来ます。しかし北回帰線と南回帰線に挟まれたところの国の気候は、熱帯と呼んでおり、回帰線付近の20度～30度の地域は亜熱帯と呼ばれ一年中乾燥し砂漠気候となりやすいのです。クウェートの首都のクウェート市は北緯29度31分の位置にあり、亜熱帯地域に入っています。国土のほとんどは砂漠気候なのです。クウェートは太陽が赤道を越え北に行く6月頃、ちょうど真上辺りに来ます。

全く暑い暑い毎日です。太陽がさらに北に行くとクウェート人にとっては心地よい気候になります。再度南に太陽が戻って来る9月、10月頃を中心にまた暑くなって来ます。2月、3月になると太陽は赤道を越えてはるか南なのでクウェートは冬の時期に入ります。現地の人達は寒い寒いと毛糸のセーターを羽織っていますが、我々はあまり変わらず暑い毎日だと思っていました。不思議なものです。

この頃になると天候も不安定になることがあります。高床のような軒家が我が家です。通勤には与えられた1台のダットサンピックアップを使用し道なき道を通勤します。玄関先に車があると家の中に人がいることとなります。ある日、例の如く酒盛りをしていて疲れもあって熟睡してしまいました。晴天の朝、起床していざ出勤となりましたが、玄関先に置いた車がありません。皆さんの車も同じように見当たらず大騒ぎになりました。外を見るとどうも大量の水が流れたような跡があります。雷も夜中に聞いた人もいたそうです。なんだ！なんだ！寝ている間に砂漠で洪水があったのです。皆さん想像できますか？家は高床なので大量の水にも影響されなかったようです。車がプカプカ流されるほどですから相当な流量だったに違いありません。徒歩でそこら中、自分の車を探し歩きました。皆同じ新車ですし、ナンバープレートはアラビア語ですので控えてもいません。めぼしい車を見つけ片っ端からドアを開けて行きました。やっと自分の車にたどり着くまで相当な時間がかかりました。雨のあまり降らない砂漠で車が流されるほどの洪水に遭ったと言っても誰も信じたくないと思いますが、本当なのです。水の流れは粘土質の土漠の土地だけで、水は砂地の砂漠にすぐに吸いこまれてしまいます。そこでの冬の季節は、夜の気温が下がったときには少しは雨も降って来ようです。水に関するエピソードが沢山ありますが、本号はこの辺りで終わります。次回は最終号で、3回目の海外出張もいよいよ終わりとなります。

（続く）

退職ジャンボ機長の回想⑧ 忘れ得ぬことども 柳田秀明

新しいジャンボ 747-400 機で成田からサン・フランシスコ便に乗務したときです。私が操縦して進入着陸のため車輪を出し、低速で揚力を増す為に主翼の後縁のフラップを伸ばすように副操縦士にオーダーすると、フラップが故障で伸びない指示が出ました。このままでは正常な着陸が出来ないため、直ちに着陸復行し、管制官に着陸装置の不具合の発生を伝え、サン・フランシスコ管制所はすぐに私達だけの為に専用の管制官と無線周波数を配置して支援してくれました。専任の管制官が尋ねてきたのは故障対策にどのくらい時間が必要かと、乗員を含めた搭乗者数だけでした。不具合の度合いなど余計な事は聞かず管制官はレーダーで当機を必要な時間誘導してくれました。二人乗りのジャンボ機ではトラブルが発生すると、副操縦士がチェックリストに従い故障の操作を担当し、私はオートパイロットを利用しながら管制官との通信をしたり、お客様に故障状況についての簡単に機内放送をしました。客室乗務員にも着陸までの必要時間を伝え、さらに会社の運航管理者に無線で手短かに状況を伝えました。着陸に必要なフラップが出ないので今回は適切な着陸速度を大きく増やす必要がありました。今回の着陸速度の145ノット(時速260km)から25ノット増やして170ノット(時速306km)になりました。これにより着陸距離は約50パーセントも増えましたがサン・フランシスコの滑走路は3000m以上あったので着陸には十分でした。故障時の操作を約15分かけて終えた後、着陸の準備が整ったことを管制官に伝え、当機をレーダーで滑走路の延長線上に誘導してくれました。管制官は冷静に当機を見守り、私達に他の航空機より優先して進入許可を出してくれました。私は無事着陸した後会社の運航管理者を通じてサン・フランシスコの管制官にお礼を伝えてくれるようお願いしました。

■アメリカでのジョギング

サン・フランシスコ、ロス・アンゼルス、シカゴ、ニュー・ヨークなどでも仕事で滞在中によくジョギングをしました。サン・フランシスコは坂の多い町です。ケーブルカーに沿って走り、有名なゴールデンゲイトブリッジ(金門橋)までよく走りました。ロス・

アンゼルスでのことです。車の多い通りを避けて裏道を走っていたとき“パン”という音がしたので振り向くと、若い男が20メートル位離れたところで私を見てニヤッと笑っていました。よく見ると手にピストルを持っていて、私はとても恐ろしく感じ急いで走り去りました。ジョギングパンツには身を守るために必ず幾らかのお金と身分証明書を入れて走りますが、まさか私のお金が目当てだとは思えません。周りに歩いている人が何人もいたのに少しも騒がず驚かない様子にも別の意味でおどろきました。ニュー・ヨークでは、新型コロナウイルス感染者用のテントが設置されているセントラルパークをよく走りました。東京の皇居一周のジョギングコースは約4キロメートルですがセントラルパークのジョギングコースは長方形で一周が10キロメートルあり皇居の2倍以上の広さがあります。公園の中には森も池もあり、ジョギングコースは整備されていて、人工的な坂も作ってあります。この公園は一日中走っている人がおり、冬には雪が積もるとクロスカントリースキーをしている人も見かけました。シカゴでは五大湖の一つミシガン湖の岸辺を走りました。風が強いつきには湖の波が海と同じように立ちます。こうして行く先々でジョギングしていると日本時間の真夜中に走っていることになります。不規則な生活と加齢現象も重なり航空身体検査で不整脈が多いと指摘されました。すると会社は時差が少なく体に負担の少ない東南アジアに乗務路線を変えてくれました。シンガポール、バンコク、ホーチミン、マニラなどでジョギングを控え散歩をすることにしました。

■定年退職

二人乗りジャンボ機に10年乗務して60歳を迎え、2004年4月に定年になり、ラストフライトを迎えました。ラストフライトは、好きな路線を選ぶことが出来ます。思い出の多いホノルル線でも思いましたが、時差のない羽田から福岡線を選びました。ラストフライトの前日に羽田と福岡を1往復半して福岡に泊まり、翌日も福岡と羽田を1往復半して、羽田で日本航空での乗務の幕を閉じました。福岡へのフライトには家内も客席に乗せ福岡でラストフライトの前夜を過ごしました。ラストフライトで羽田に着く

と何人もの同期生と後輩、地上職の仲間が集まって来て花束も幾つももらいました。いつか来ると覚悟していた日が来ましたが、普段の乗務と変わりなく終えました。まだ自分は元気で航空身体検査証も有効なのには思いましたが。

■定年後

以前から定年後は神様が用意してくれた自由に使える時間のボーナスだと私は思っていました。それで日本アジア航空で台湾路線を飛んでから十数年来、中国語を習いに飯田橋にある日中学院に通っていたので、日本語教師になり中国に行って日本語を教えてみようと考えていました。外国人に日本語を教える教師を養成する学校に入り頑張ってみましたが、自分に教師の適性が少しもないのがわかりました。こんなときに先輩から北海道で飛ばないかと声を掛けていただきました。函館の小さなエアトランセという航空会社です。かつて社長が女性で話題になった新しい航空会社です。使用している飛行機はビーチクラフト 1900D という 19 人乗りの双発プロペラ機です。何故 19 人乗りかという 19 人乗りまでは安全要員としての客室乗務員なしで運航できるからです。出発時にお客様が全員搭乗されると、副操縦士が座席を離れて搭乗ドアのロックを確かめた後、お客様に一礼して座席に戻ります。操縦席と客席はカーテン 1 枚で仕切られており、ハイジャックなどは想定していません。お客様が降機した後は、副操縦士と共にシートベルトを直し毛布をたたみます。この会社は函館が基地で、帯広、女満別、札幌千歳に路線を持っていました。函館から女満別や帯広に飛



B-1900D 函館空港にて (2006 年 2 月)

ぶときは少し遠回りですが、新千歳発の東京方面の出発航路と新千歳空港に着陸のための航路を避ける為に函館から北上し札幌市の上空で東に針路を変えます。晴れていると蝦夷富士と言われる羊蹄山、札幌の市街、小樽の運河などがはっきり見えます。飛行高度も 4000 メートルから 5000 メートル位と低く遊覧飛行をしているみたいです。しかし雲中飛行になると飛行機に氷が着いたり揺れたりすることもよくありました。

飛行機にも車の車検と同じように“毎年耐空証明証”の取得が義務付けられ、この耐空証明証が無いと飛ばません。しっかり定期整備を終えた飛行機を実際に 2 時間以上飛行させ、航空局の飛行検査官と会社の整備士が同乗し、機上の搭載機器が正しく作動するのをチェックします。片方のエンジンを止めた後に再度空中で手順通り始動することを確認したり、急減圧時に酸素マスクが収納棚から確実に落ちてくるかを確認します。許容されている最大速度を超えたとき速度警報装置が正しく作動するか、減速して失速前に失速警報装置が適切に作動するかを確認

します。飛行機を実際に失速するまでテストしますがこの時飛行機が横滑りしているとキリモミ状態に入ることもあります。私は学生時代にキリモミ状態を経験しているので慎重に操縦しました。飛行機の事故の多くは訓練飛行と試験飛行の時と言われています。(今回は筆者撮影)

(続く)



特徴的な尾翼、下向きのウイングレット(翼端板)。



B-1900D の操縦席

お詫び 本シリーズ 6 月号のサブタイトルを「指導教官」とすべきところ、手違いで 4 月号の「貨物機に乗務」が印刷されてしまいました。ここに訂正させていただきます。筆者の柳田さんには特にお詫び申し上げます。

古き良き日中の民間友誼—(2)

和田 宏

3. 魯迅と内山完造

さて、日中友好の先駆者の一人、内山完造（1885～1959年 享年74歳）は1885年岡山県で生れ、28歳の1913年、目薬会社の海外出張員として上海に赴いた。3年後に結婚した妻・美喜が収入の足しにと、上海市北四川路の自宅の玄関先で本を売り始め、さらに向かいの空き家を買って1917年、本格的な書店としたところ、本の売り上げは鰻登り。一方、当時の中国人の左翼文学者だった魯迅（1881～1936年 享年55歳）をはじめ、郭沫若、田漢、陳独秀、歐陽予倩、謝六逸、汪兆銘、また日本人の著名な作家である谷崎潤一郎、佐藤春夫、芥川龍之介、林芙美子、更にアメリカの記者アグニス・スメドレーなど、インテリゲンチャーや進歩的な文学者らが頻繁に内山書店を訪れるようになり、店はさながら日中の文化サロンのようになった。

今では『本屋』と言うが、昔は『書肆』と言った。完造が初めて『書店』という言葉をあみ出したと言われている。完造は、中国政府から逮捕令状の出ている魯迅とその家族を家の中に匿ってやった。完造は、1935年、初めて『挿的支那身姿（生ける支那の姿）』という本を著した。様々な中国人と付き合った経験に基づいて完造が、中国人と日本人の相違などについて詳しく面白く書いているものだが、この本の序文を魯迅が、中国人を褒め過ぎないようにと内山に釘をさしつつ、巧みな日本語で書いている。

1936年、魯迅が55歳で亡くなった時、宋慶齡、蔡元培などが葬

儀委員になったが、その中で内山完造は副委員長を務め、追悼演説をしている。抗日戦争中も、クリスチャンである完造は、中国人だからと言って軽視したりせず、どんな人に対しても平等に友情を結び続けた。第二次世界大戦が終わって、内山は初代の「日中友好協会」理事長になっている。1959年に新中国の国慶節10周年に招かれて赴いた北京で客死した。彼の追悼式には、「中日友好協会」初代会長の廖承志や魯迅の妻の許広平、西園寺公一らが葬儀委員を務め、田漢は内山の為に五言の長詩を作って捧げた。

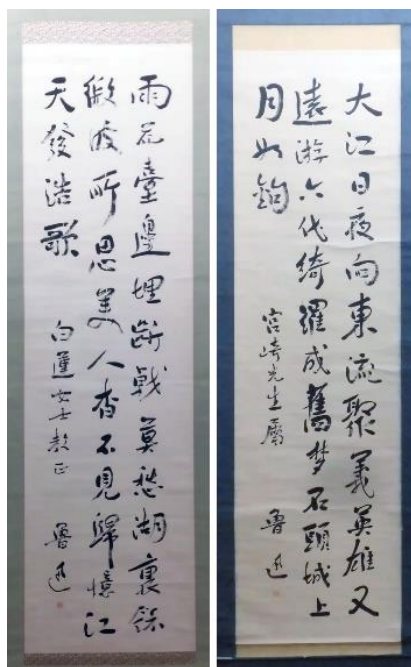
日中国交回復の翌年1973年5月、来日して佐世保湾を視察した廖承志を取材するため、私は一緒にボートに乗った。彼は早稲田大の校歌『都の西北』を歌ってくれた。但し、慶応大生が皮肉って歌う歌詞だった。

♪都の西北 早稲田の杜に 聳ゆるトタン屋根
我らが下宿 我らが日頃の おかずを知るや
一銭の大根に 五厘の煮豆 日増しに痩せゆく
我らの身体・・・痩せた痩せた
痩せた痩せた・・・♪

傍に居た一同大笑い。廖承志が東京の大久保生まれで、早稲田高等学院卒なのだから流暢な日本語を操るのは当然なのかもしれない。また、東京の神田すずらん通りには内山完造の弟が開いた本屋が現在も営業している。

4. 魯迅の書いた『藤野先生』

宮崎露荃さんの家には、魯迅から貰った掛け軸もあるが、魯迅と言えば魯迅が書いた『藤野先生』を



宮崎露荃宅にある魯迅の掛け軸



藤野巖九郎が魯迅に渡した顔写真とその裏側
(北京魯迅博物館所蔵)

思い出す。1904年、魯迅（本名：周樹人）は、仙台医学専門学校に留学した。東北大学医学部の前身である。ここで、魯迅は1年半医学を学んだ。解剖学の藤野巖九郎先生は、日本語が不自由な魯迅のことを心配して、魯迅にノートを持って来させては落ちているところを書き足してあげた。藤野先生は、中国人女性の纏足に関心を示し、魯迅に対して纏足の足の骨はどんな風になっているのか？ 尋ね、魯迅を困らせている。それは纏足は、中国人にとっては誰にも見せてはいけない秘所より恥ずかしいとされていた個所であるから。1905年秋のある日、日本が日露戦争に勝ち、その様子を幻燈に映し出す時間があった。ロシアのスパイとして働いていた中国人が処刑される場面が映りだされた時、日本人の学生達は歓声を上げたが、幻燈上では、ヘラヘラ笑っている表情の中国人の群衆も映りだされていた。これを見た魯迅は、胸を締め付けられ、中国を救うのは医学ではなく、文芸であり、中国人の精神を改造することによってのみ、中国を救うことが出来ると気付き、医学の勉強を止め、この学校を去る決心をする。藤野先生は、別れに際して自分の顔写真を贈り、裏に『惜別 藤野』と書いた。

魯迅は中国に戻ってから、その写真を勉強机の前に張り、いつもそれを見ながら勉強に励んだの



東北大学魯迅の座った席（前から3番目の真ん中の机が「指定席」と信じられている）（宮城ミュージアムアライアンスHPより）

である。江沢民が来日した時、感慨深い表情で魯迅の座った教室の座席に座った。魯迅の書いたこの『藤野先生』のストーリーを太宰治が1945年9月に『惜別』という小説で、かなり脚色して細かく書いているのを知って、私は驚いた。魯迅は1936年に55歳で亡くなったが、もし新中国成立後まで生きていたらきっと教育部長など政府の要職に就いていたに違いないと、惜しむのである。

魯迅は現代中国語の模範でもある。男子の三人称のHeを『他』とし、女性のSheは『她』とし、Itにあたる物などは『它』とそれぞれ表記した初めての人である。また名詞を形容する形容詞として使う時は『漂亮的衣服』と『的』を、また副詞に使う時は『慢慢儿地说』と『地』を用いるようにした。

5. 聂耳と田漢

1967年7月、私は、大学3年生の夏休みに学友2人と湘南の鵠沼海岸へ海水浴に出掛けた。私は水泳が得意で、平泳ぎならどこまでも泳げると言う自信があり、友達二人をそっちのけで独り、沖合1.5キロ程の所にある烏帽子岩を目指して泳いで行ったのだ。何とか岩まで辿り着き、今度は海岸に向かって戻る段となった。ところが、一向に海岸が近くならない。潮の流れが思いもよらぬほど強く、身体が沖合と西の方に流されている為だ



烏帽子岩と江の島
(ブログ「茅ヶ崎情報、にほんブログ村、『えぼし岩から』」より)



湘南海岸公園の聶耳記念広場。後方は江の島
(ウィキペディアより)

と判った。こりゃ大変だ！ 私は、当時中国の文化大革命中に歌われた歌『下定决心 不怕牺牲 排除万難 去争取胜利！』を繰り返し歌いながら必死で泳ぎ続けた。随分流されたが、息も絶え絶えに何とか海岸に辿り着いた。二人の友人は私の帰りが遅いので、遭難したのではないかと心配し、もう少しで警察に届けるところだった。

この海岸は、日本に居た兄を頼って亡命していた聶耳が、1935年7月17日海水浴に来ていて溺死した場所でもある。享年23。聶耳は、中国の国歌の“義勇軍進行曲”の作曲者として知られている。この曲は、元々は1935年に封切られた抗日映画『風雲児女』の中で使われた主題歌であった。

この主題歌の作曲者が、上海の歌舞団でヴァイオリン弾きなどをしていた聶耳であり、中華人民共和国成立直前の1949年9月27日、国歌に採用



映画『風雲児女』ポスター
(百度百科より)

されることが決まった。作詞者は、毛沢東や劉少奇と同じ湖南省長沙市出身の田漢である。演劇の演出など何でも出来る田漢は、嘗て東京高等師範学校に留学していたなど日本趣味に汚染された“走資派”だと

して文革中に投獄され、1968年12月10日獄中死。享年70。その後名誉は回復されたが、中国国歌の作曲者と作詞者の二人の結末が悲劇だったことに私は胸が痛む。

鵠沼海岸には1954年聶耳記念碑が建てられた。それが台風で流出したため1965年、郭沫若の揮毫による新しい記念碑が再び建てられた。当時19歳の私は、再建された記念碑を見学するために、『日中友好協会練馬支部』の会員として練馬区からバス旅行で出掛けた。この訪問から46年後の65歳になった2011年夏には、在日本中国大使館で働く外交官の家族と、神奈川県日中友好協会の日中両国人民の家族合せて70人が、一緒にこの聶耳記念公園を訪問し、そのあと、江の島に行って、“日中友好の昼食”としてシラス丼を揃って食べた。

聶耳の命日7月17日には毎年、田漢の弟・田耕の娘、つまり姪の田偉さん（1954年6月7日、湖南省長沙市生まれ）が、聶耳記念公園で、“義勇軍進行曲”を斉唱する。田偉さんは、ソプラノ歌手でもあり、バレリーナーでもある。皆さんも参加して一緒に、“起来！ 不愿做奴隶的人们 把我们的血肉、筑成我们新的长城！…”と歌ってみませんか？ 私は、聶耳作曲の『码头工人』という歌を聶耳本人が歌っているCDを持っています。つまり、聶耳の声が聞けますよ。欲しい人にはコピーしてプレゼントしましょう。

河南籍の商人（企業家）は「豫商」とも呼ばれ、たとえ明清時代の著名十大商幫（「徽商」、「晋商」など）の中に「豫商」の名は見られないものの、河南は中国の商人、商業そして商文化の重要な発祥地であり、商業発展史上で豫商は燦然と輝いている。

近年、河南籍企業家が各地で展開する事業が発展しているのに伴って、「新豫商」という概念が誕生した。河南省の行政当局も新しい河南ブランドを形成するためこの新概念を非常に重視しており、「新豫商」が河南経済の発展に貢献することを期待している。

他方、中国には「地縁的商会」あるいは「異地商会」と呼ばれる組織がある。これは一般に、ある行政区域（登録地または所在地）において別の行政区域（原籍地）出身の企業家が集まって、原籍地および登録地双方の経済に貢献する目的で設立した非営利団体である。浙江商会、広東商会、四川商会など全国各地に地縁性商会が存在する。

日本にも同郷組織として「県人会」があるが、同じ県出身者の親睦が主たる目的であって、中国のように企業家が中心となって、地元と移動先を経済的に結ぶという活動は盛んではないようである。その中で、少し以前になるが、私が調べたところ、いずれも東京にある、群馬県、京都府、徳島県、および宮崎県の県人会等が、中国の地縁的商会と似た経済活動を行っていた。

「新豫商」と呼ばれる河南省出身の企業家も相互関係を促進・拡大するために、2004年7月17日、国内最初の地縁的河南商会を上海で設立し、以後、全国各地に河南商会が次々と誕生している。2018年1月現在、中国国内には192の河南商会が存在し、国外にも40余りの河南商会（または、同郷会）が設立されている。日本にも2014年5月26日に「日本河南同郷会」の姉妹団体として設立された「日本河南総商会」がある。

「豫商は故郷を慕う気持ちが強く、成功しても故郷を忘れないという良き伝統がある」（“豫商有恋土念乡、致富不忘家乡的优良传统”）と言われる（後述す

る豫商連合会の陳義初会長による）。成功した河南籍の企業家は地縁関係を基礎とし、故郷への想いをきずなどして河南商会の下で結束力を高めている。故郷への恩返しとして公益事業や災害救助向けに金銭・物資を提供するほか、積極的な投資を通じて地元経済発展に貢献している。

ところで、商会は原籍地および登録地としてどの地域範囲をとるかによって、いくつかの類型があり、名称に特徴がある。名称に河南商会が含まれていれば会員企業の原籍が河南省全域に及ぶ点は共通であるが、たとえば、「広東省河南商会」は省レベルの商会であって、その会員企業の所在地（登録地）は広東省全域に広がっている。それに対して「広州市河南商会」は市レベルの商会であり、その会員企業の所在は広州市内に限定されている。逆に原籍地が河南省に属する市で、登録地が省レベルであるような「天津市周口商会」という商会もある（これも「河南商会」に含める）。また、原籍・登録両方とも市レベルである「蘭州洛陽商会」もある。これは河南省の洛陽市を原籍とし、甘粛省の蘭州市を登録地とする企業が作る商会である。

さらに、例外的ではあるが、甘粛省天水市の下甘谷県を登録地とする河南原籍の企業が作る「甘谷県河南商会」もある。なお、原籍が市より下の県レベルであるような（河南）商会も考えられるが、私が調べた限り、現時点ではそうした例はないようである。一般に、市レベル（以下）の商会は団体会員の資格で（当該市が含まれている）省レベルの商会に加入しているが、組織としての意思決定は基本的に独立している。

2006年8月28日には国内外の河南商会が集まる第1回豫商大会が鄭州市において開催された。その後、豫商大会は毎年1回、河南省の各市を巡回して開かれている。この豫商大会は内外の河南出身者の結束を確認するとともに、開催市への投資・企業誘致を促すことを目的としている。そのため、開催市の投資環境の説明、投資案件が紹介され、実際に多数の投資契約が結ばれる。2008年1月27日には河南の商工

業企業、関連団体および国内外の河南商会等が組織する「河南省豫商連合会」も設立された。第14回豫商大会は2019年8月28日と29日に内外145の河南商会の代表など1300名余りの参加を得て鶴壁市で開かれた。また、本年の第15回は三門峡市で開催される予定である。

私は、過去第8回(2013年、安陽市)、第10回(2015年、信陽市)、第12回(2017年、濮陽市)、第13回(2018年、駐馬店市)の4回、この豫商大会に参加する機会を得た。そこで今回は第13回の大会について開催地の駐馬店市の様子を含めて紹介することにしたい。

第13回豫商大会は2018年8月27日から29日にかけて、河南省駐馬店市の駐馬店市会展中心報告廳を主会場に開催された。29日付『駐馬店日報』の報道によると、今回の大会には中国国内127の異地河南商会および20の海外河南商会から1500名を超える豫商の代表、来賓が集まった。

駐馬店市は、河南省に18ある市(17地級市と1省直轄県級市)のうちの1つであり、河南省の中南部に位置する。名前は歴史的にこの地に「駅」が作られたことに由来する。「駅」とは旅人が宿泊したり、馬を交換する場所であり、古代はとくに軍事情報を伝える者のために設置された。日本語の「宿駅」に当たる。市の面積は約1.5万平方キロメートル、総人口は805.2万人(2018年)である。近年は新興工業都市としても発展しているが、伝統的には小麦、食用油原料、肉類等の一大産地として知られている。

8月27日に参加者の登録が行われ、夜は準備会が開催された。翌8月28日は7時半過ぎにホテルから大型バスに分乗して開会式の会場へ向かう。開会前に会場内で日本河南総商会の一行を見つけ、副会長の杜磊氏にあいさつする。

今回の豫商大会の主題は「相聚天中、共贏未来」(“天中に相集い、未来をウィンウィンで”)であった。この天中とは駐馬店市の別称であり、当地が「天下之最中」と呼ばれることに由来する。開会式は河南省政協(政治協商会議)副主席・龔立群氏の司会で始まった(以下、肩書は当時)。まず、河南省政協主席の劉偉氏が河南省を代表して、歓迎の言葉を述べ、中原の発展への貢献を呼び掛けた。つづいて、河南省の副省長・何金平氏の祝辞があった。開催地からは駐馬店市

委(共産党委員会)の陳星書記が歓迎のあいさつに立った。開幕式終了後は、駐馬店市の概況、有望産業と重点投資プロジェクトの紹介がなされた。

引き続き同じ会場で今回の主題を巡る講演会が実施され、元河南省委書記で「豫商大会」の創設に尽力した徐光春氏が中国および河南省の経済の現状についての講演を行った。また、豫商連合会会長の陳義初氏からは「イノベーション：企業の持続的発展の根本」と題する講演がなされた。今後の製造業の発展にとってイノベーションが鍵であり、その担い手としての企業家の役割が重要であるという内容であった。その他の講演を含めて午前の全体会は12:30に終了した。

午後はいくつかの分科会が開催され、私はそのうちのひとつ、投資を募るための企業紹介を中心とした分科会に参加した。企業紹介として弦楽器製造業企業・河南昊韻楽器有限公司の地元出身創業者、郭新社氏は自社製品のバイオリンを壇上に飾ってのプレゼンテーションであった。同社は2015年12月に設立され、資本金は1000万元、従業員はこの時点で、160名とのことである。製品はバイオリン、チェロなど各種の弦楽器で、中国国内はもとより、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリアなど10か国以上に輸出している。

中国で全国的に有名な回族の調味料「十三香」を生産する駐馬店市王守義十三香調味品集団有限公司も「小産品大産業」と題したプレゼンテーションを行った。海外からも「ポーランド中欧国際基金会」が参加していた。

興味深かったのは、全体会でも登壇した豫商連合会会長・陳義初氏の講演であった。陳氏はいずれの企業も持続的な発展を遂げるためには誠実な態度を堅持することが大切であるとした上で、日本ではそれが実践されて長寿企業の多いことをデータで示し、中国企業も見習うべきであると述べていた。陳氏によると日本には100年以上続いている長寿企業が25,321社あって、これは世界一だそうである。そのうち200年を超える企業は3,939社、300年を超える企業が1,938社、500年を超える企業は147社あり、なんと1000年を超える企業も21社存在する。最高齢は陳氏が実際に訪問した578年設立の建築会社「金剛組」とのことである。

本年5月号に初めて投稿し、今回2度目の投稿となります。

まずは、みなさんへの問題です。

次の4つの漢字に共通する特徴は何でしょうか？

- ①「称(chēng)：…と称する、(目方を)量る」
- ②「劲(jìn)：力、意気、(形容詞の後について)様子」
- ③「胖(pàng)：(人が)ふとっている」
- ④「亲(qīn)：親、肉親の、親戚、自ら(の)」

字形ではなく、音声に関わることです。ちょっと、考えてみてください。

今回のテーマの一つは「多音字」です。「多音字」というのは、1つの漢字に2つ以上の読み方がある漢字のことです。中国語の漢字は、基本的に、1漢字に1発音ですが、「多音字」も少なからずあります。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」では、「多音字」は、親字(見出しの漢字)の説明の最後のほうに、《異読》として他の読み方が載っているのです、すぐにわかります(図1)。

「彩图学生多音字有声字典」(図2)には、小学生でも比較的によく使う「多音字」として、345個の「多音字」が紹介されています。

最初に挙げた4つの漢字は、すべて「多音字」で、「彩图学生多音字有声字典」の中に紹介されているものです。これが第一の特徴です。それでは、345個の「多音字」から、さらに4個に絞られて

* 强(強・彊) **qiǎng** ㄑㄩㄢˇ 3931
 (電碼) 1730 || 無理に、強いて、強引に、ㄑㄩㄢˇ ~ 笑 / 作り笑いをする。ㄑㄩㄢˇ ~ 作鎮靜 zhèn jìng / 無理に落ち着き払ってみせる。ㄑㄩㄢˇ ~ 辯 biàn。ㄑㄩㄢˇ ~ 不知以為 yī wéi 知 / 無理に知ったかぶりをする。
 (異讀) ㄑㄩㄢˊ 强, ㄑㄩㄢˋ 强
 (成語) 勉强 miǎn 强, 牵强 qiān 强
qiǎng bī ㄑㄩㄢˇ 逼 無理強いる。強制する。強要する。ㄑㄩㄢˇ 这件事要自觉自愿, 不能 ~ / これは各自の自覚と自発性にまつべきで、無理強りするわけにはいかない。
qiǎng biàn ㄑㄩㄢˇ 辯 強弁する。理にかなわぬことを

図1 「中日辞典」から「强」の項 (小学館, 1992年)

いる理由は何なのでしょう。

今回のテーマのもう一つは、(-n, -ng) で終わる音節を有する漢字です。相原茂編著「中国語学習ハンドブック」(1988年(株)大修館書店発行)から、その説明を引用させていただきます。

『中国語には、an や ang、in や ing のように最後が n や ng で終わる音がある。日本語では -n か -ng かをことさら区別しないが、実際の発音では例え

ば「案内」(アンナイ)では n が、「案内」(アンガイ)では ng が現れている。だが、日本語ではこのような n も ng も「ン」であり、同一の音と見なしている。一方、中国語では、gēn (根) と gēng (耕)、fàn (飯) と fàng (放) は全く違う音として意識され、意味も異なる。中国語には n と ng の対立があるのである。「この字は最後が -n だったか -ng だったか」と迷うことがある。そんな時は日本漢字音で読んでみるとよい。例えば“穿”は chuān か chuāng か? 日本漢字音



図2 「彩图学生多音字有声字典」表紙 (北京、科学普及出版社 2000年刊)

では「セン」。実は-ンで終わるものは中国語では-nで終わるという対応関係がある。従って“穿”はchuānということになる。(以下省略)』

例えば、「晚上(wǎnshàng)：夕方、夜」と「网上(wǎngshàng)：インターネットで」、中国語では両者は別の音・別の意味ですが、日本人にとってはどちらも「ワンシャン」に聞こえます。しかし、「晩」と「网(繁体字は「網」)」を日本語の音読みで読めば「バン」と「モウ」。ですから、「晩」は「-n」で終わる「wǎn」、「网」は「-n」で終わらないわけです。

そこで、最初に挙げた4つの漢字について一つずつ説明すると、

「称」は日本語の音読みは「ショウ」なので、「-ng」で終わる「chēng」という発音に問題はないのですが、「-n」で終わる「chèn」という発音も持っているのです。「劲(繁体字は「勁」)」は「ケイ」と音読みしますが「-n」で終わる「jìn」となっています。これは、「-n」と「-ン」の対応関係に当てはまらないようですが、実は「-ng」で終わる「jìng」という発音も持っているのです。「胖」は「ハン」と音読みしますが「-ng」で終わる「pàng」となっています。これも「-n」で終わる「pán」という発音があるのです。「亲(繁体字は「親」)」は「シン」と音読みするので「-n」で終わる「qīn」は問題ないのですが、「-ng」で終わる「qīng」という発音も持っているのです。

ということで、最初の問題の答えは、「-n」で終わる音と「-ng」で終わる音の両方を持つ「多音字」で、「-n」と「-ン」の対応関係に当てはまらないこともあるという漢字でした。

ちなみに、最初に挙げた4つの漢字のもう一つの発音が表す意味は以下の通りです。

- ①「称(chèn)：かなう、つり合う、ぴったり合う」
- ②「劲(jìng)：強い、力強い」
- ③「胖(pán)：〈書面語〉安らかである」
- ④「亲(qīng)：“亲家 qīngjia”という語に用いる」



图3 「彩图学生多音字有声字典」の「称」のページ

このような漢字ではどちらか一方がよく使われ、もう一方はあまりお目にかからないものですが、「称」という漢字は「chèn」も「chēng」もお馴染みですね。参考までに、「彩图学生多音字有声字典」の「称」のページをご覧ください(图3)。

「中日辞典」を調べると、ほかにも下記のものがあります。

- 「厂：ān、chǎng」、「广：ān、guǎng」、
- 「拼：bēn、bīng」、「夯：bèn、hāng」、
- 「槟：bīn、bīng」、
- 「伧：cāng、chen」、
- 「泔：miǎn、shéng」。

「厂(chǎng)(繁体字は「廠」)：工場」や「广(guǎng)(繁体字は「廣」)：広い、広める」に、「ān」という発音があるというのは意外でしょう。どちらも「庵(ān)」に同じで、人名に用いることが多いとのこと

With Corona で活動開始

非常事態宣言は解除されましたが、東京の感染者数は収まりません。これからはコロナウイルスに気を付けながら、活動を続けなければならないようです。

わりいりに毎月挿絵を書いてくださる満柏画伯が、今までに書き溜めた、様々なジャンルの作品を集めて、展覧会を開催されるようです。皆さまも、コロナウイルスに気を付けながら、久しぶりの外出として、展覧会の会場を覗いてご覧になるのもいいのではないのでしょうか。

わりいりの、ボイストレも漢詩の会も、思い思いに活動を始めました。活動の様子をご報告致します。

~~~~~

### 満柏画伯の展覧会 満柏芸術展・日中芸術家交流展

会場：横浜市みなとみらいギャラリーC  
横浜市西区みなとみらい2丁目3-5  
クイーンモール2階  
みなとみらい線「みなとみらい駅」徒歩1分  
JR 桜木町駅徒歩5分

会期： 7月22日（水）～8月3日（月）

時間： 通常 11時～18時

7月22日（水） 14時より

8月3日（月） 16時まで

主催：日中水墨協会

電話：045-664-3789 080-5017-9518

Mail：[ncs.culture@gmail.com](mailto:ncs.culture@gmail.com)

URL：<http://topart.main.jp/exhi20201.html>

・>・>・>・>・>・

### 6月の漢詩の会

6月21日、漢詩の会は、実に4か月ぶりに開催されました。参加希望の皆さんは、今か今かと待ち構えておられて、当日の出席者は18人でした。まちだ中央公民館視聴覚室には3人掛けのテーブルが10台ありますので、定員は30名なのですが、ソーシャルディスタンスのことを考えると、入室可能なギリギリの人数でした。

町田市役所からは、施設使用にあたって、マスク着用と大きな声を出さないようにとの注意・要請がありました。この件に関しては、植田先生がご配慮くださり、何時もの、声を合わせての詩の音読は取りやめにしました。その代わりに、この日

に取り上げた詩の作者に関する資料をご用意くださり、いつにも増して、詳しいお話を伺いました。

本当に久しぶりの漢詩の会の雰囲気、皆さん満足して下さったと思います。

なお、この日勉強した詳しい内容は、9月号で、いつものように花岡風子さんが、正確で楽しい「漢詩の会報告」をして下さいますので、楽しみになさってください。

・>・>・>・>・>・

### 5月のボイストレはオンライン！

5月のボイストレは、「世の中の流れに挑戦しましょう」ということで、ズームを使ってのオンライン・レッスンをやってみました。準備には苦労しましたが、実際にやってみると、なかなか楽しいものでした。モバイル社会に一步踏み込んだような気になりました。

それでも、6月には会場が使用できるようになったので、久しぶりに集まり、楽しいレッスンが出来ました。

やはり、「集まるに如くはなし」です。

・>・>・>・>・>・



## 【わんりいの催し】

### ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館・視聴覚室
- 日時： 7月28日(火) 10:00～11:30  
8月25日(火) 10:00～11:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

中国語で読む 漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう！

録音機をお持ちの方はご持参ください。

- 会場：まちだ中央公民館・視聴覚室
- 日時：7月26日(日)
8月30日(日)
いずれも10:00～11:30
- 講師：植田渥雄先生
桜美林大学名誉教授
現桜美林大学孔子学院講師

- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)
Email:ukiuki65.jp.jp@yahoo.co.jp
(有為楠)

■7月定例会

▼7月7日(火)13:30～
三輪センター第三会議室

■‘わんりい’ 発送

▼8月は休刊
▼9月号発送は8月29日(土)10:30～
三輪センター第四会議室 (弁当持参)

—— 編集後記 ——

緊急事態宣言が解除され、移動も制限なく出来るようになったと言っても、毎日の感染者数を見ると、とても以前のように自由に活動する気にはなれませんね。

それでも、人間社会は人が動き、ものが移動し、お金が流れないと成り立ちません。ポスト・コロナの生き方がかまびすしく議論される所以でしょう。

わんりいも、活動再開に当たって、どうしたらウイルスの蔓延を防げるか、どうしたらウイルスに罹らないかを考えて、出来る限りの用心をしたいものです。

~*~*~*~*~*~*~

世の中がコロナウイルスに振り回されている間も、季節は着実に進んでいます。6月21日は夏至でした。これからは徐々に昼が短くなりますね。今年は時間を随分損したような気になっています。

~*~*~*~*~*~*~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します
年会費：1800円、入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい
9月以降は、当年会費1100円になります。
下記へお問い合わせください。

■問合せ：044-986-4195 (寺西)

‘わんりい’ 255号の主な目次

寺子屋・四字成語 (34) 殺鶏嚇猿	2
「日译诗词」(4) 大鼠	3
中国の歴史を彩る美人百花 (1)	5
「中原旅行記」(4)	7
海外出張の思い出 (クウェート編③)	9
退職ジャンボ機長の回想⑧	11
古き良き日中の民間友誼 (2)	13
「中原」雑感 (4) 駐馬店市における豫商	16
「中日辞典」からの意外な発見 その2	19
With coronaで活動開始	21
‘わんりい’の催し・入会案内	22